



## 【先週のメッセージより】 ルカ 14:25-35

## 「自分の十字架を負ってイエスに従うということ」

- ★ 現在世界には22億人もものクリスチャンがいるとされていますが、その中で本当に主の弟子となっているのはどれくらいでしょうか。主はたびたびご自分についてくる大群衆に対して振り向き、本気に弟子となって主に従うかどうか、チャレンジをされました。救われた私たちに対しても主は「弟子への召命」をなさっておられます。
- ★ 主の弟子となるためには「自分の父、母、子、兄弟、姉妹、自分のいのちまでも憎む」ことが要求されています。超えられないハードルのように思えますし、主に従おうとするときに、あたかも、主か、それとも家族や仕事か、というような二者択一に迫られているように感じます。しかしこれは偽りの選択なのです。誰もイエスよりも人を愛することができないからです。人はイエスを第一にする時に、初めて本当に人を愛することが出来るようになるのです。故にこのような偽りの選択は「憎むべきもの」とする必要があるのです。
- ★ 主の弟子となるための二つ目のことは「自分の十字架を負わなければならない」ということです。これは病気とか人間関係、人生の使命とか言う意味ではありません。恥と確実なる「死」を意味しました。これは「自分に死ぬ」という意味であり、野心、夢、仕事、人間関係、財産、全ての所有権を一切放棄することを意味するのです。そしてここにこそ、祝福の逆説があります。キリストと福音とのために命を失うなら、その命を救うことになるのです。
- ★ 塔の例え、敵との戦いの例えでは、弟子となる覚悟が出来ていないなら、やめておきなさい、と主イエスが言われているようにさえ聞こえてきますが、塔の建設も敵との戦いも持てる全てを動員することが求められているというのがポイントです。
- ★ 最後「塩」。完全に明け渡している弟子は、世に対して影響力を持つようになるのです。



## 【執り成し手として成長するために (1)】

私たちの教会が、目に見えない、霊的な領域において本当に影響力のある教会になっていくためには何よりも祈りに関して習熟し、実践する教会になる必要があります。以下、祈りに関する教えを集めました。共に祈りに関して成長させられて行きましょう！

## ● 祈りは力ある細い神経 (祈りは世界を変える/ディック・イーストマン著より)

- ★ 祈りは、生きたたましいの神との交わりである。祈りに関して、神は身がかがめて人に口づけし、人を祝福し、考えられるあらゆる方法で、人が必要とするあらゆるものをもって、人を助けてくださる。(E.M.バウンズ)
- ★ 祈りは全能者の筋肉を動かす細かい神経である。(C.スポルジョン)
- ★ わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう。(第二歴代紙7:14)
- ★ 祈りによって、あなたは自分自身を神の御心と力とに結びつけ、神はあなたを通して、他の方法ではできないことをなさる。これは開かれた宇宙であり、そこでは物事が公開されており、私たちがそれを利用するのを待っている。私たちが利用しないならば、それは手つかずに終わってしまう。神はあることがらを祈りに対して聞き入れられるように残しておかれる。それは、私たちが祈らなければ起らないのである。(スタンレー・ジョーンズ)
- ★ 悩みの時に、超自然的存在者に助けを求めることは、人間の本能である。私はこの本能の真実性を信じるし、祈りには何かがあるから人は祈ると言うことも信じる。創造者が被造物に渇きを与えるのは、その渇きを満たす水があるからであり、空腹をつくり出したのは、食欲に応じた食べ物があるからである。同様に、神が人に祈らせるのは、祈りに応じた祝福があるからなのである。(C.スポルジョン)
- ★ 祈りは自然に与えられるものではない。それは学びとらねばならないものである。祈ることを学ぶことは、祈りの実行によって得られる経験と同時に、祈りを支配している法則を知ることをも含んでいる。祈りに成長したいならば、祈りは、栄養を与えられ、育てられなければならない。(ハロルド・リンゼ)